

1. 評価結果概要表

平成 21年 4月 18日

【評価実施概要】

事業所番号	2070700055
法人名	社会福祉法人睦会
事業所名	社会福祉法人睦会 須坂やすらぎの園
所在地	長野県須坂市大字日滝字寺窪 2 8 8 7 - 1 (電話) 026-246-4600

評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志 3 丁目 7 番 1 7 号		
訪問調査日	平成21年4月15日	評価確定日	平成21年4月30日

【情報提供票より】(21年 2月 16日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 1月 5日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人	
職員数	8 人	常勤7人	非常勤1人	常勤換算7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	23,500 円	その他の経費(月額)	月1600 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (2月 16日 現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名	
要介護 1	3名	要介護 2	1名			
要介護 3	3名	要介護 4	2名			
要介護 5	要支援 2					
年齢	平均	83 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	県立須坂病院・須高歯科医師会
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

北信濃くだもの街道沿い、本郷町虫送地区に保育園を含めて14の事業を行う高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園はあり、その一角にあるグループホーム愛称「ホットファミリーやすらぎ」では9名の利用者が職員の温かい見守りの中、これまでの暮らしで得た知恵を発揮し、支えたり支えられたりして、ここでの暮らしに安心を覚えながら、日々をゆったりと過ごしている。オカリナを始めとする地域の多くのボランティアの協力、併設保育園の園児とのクッキー作りなどの交流、併設施設全体で行う納涼花火大会や運動会への参加、小・中学生、実習生、地域住民との幅広い交流やつながりなど温かいふれあひがあり、今生きていることへの喜びを十分に噛み締めることの出来る暮らしが展開されていた。毎日夜勤に入る前に、災害時・緊急時の対応の確認をすることを伺い、利用者の暮らしを守るための大切さや生命の重たさを十分に知り尽くした事業所の真摯な姿勢が感じられた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	改善課題の事業所独自の理念の掲示と時計の掛ける位置について改善されていた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価はその意義について説明し、全職員で取り組んだ。評価結果により得られた課題は具体的改善に向けて話し合い、職員のサービスの質の向上を目指すことへの意識を高めた。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議は年4回開催し、委員に有識者を加えるなど充実した体制になっている。事業所の活動の状況が報告され、有識者の的確な会議運営により意見質問が活発に出ている。委員からは食中毒や地域との交流などの質疑があり、事業運営について積極的に関わろうとする姿勢が伺えた。今後はこの会議を地域での認知症学習会などの開催協力依頼や日頃の事業運営(清掃、整理整頓、飾り付けなど)への意見や感想を聴く機会などに活用することを期待します。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族会を年3回行い、ご家族の意見や思いを言える機会や雰囲気を作っている。意見ポストや第三者委員を設けるなど意見を聴く体制は整っている。家族会でご家族同士の話し合いの場を設けて家族間のつながりを深めたり、テーマ(居間やテーブルの様子、飾り付け、清掃、職員の言動など)を決めて意見や感想を聴くなどの工夫をして、意見等を言い易くすることを望みます。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	本郷町の自治会に加入し、事業所周辺の散歩時に挨拶したり、野菜や果物のおすそ分けを頂いたり、玄関横に設置した椅子に近所の方が夕涼みに来るなど気軽なご近所つきあいが出来ている。保育園児、小・中学生との交流、ボランティアや実習生の受入れ、地元の春祭りの獅子舞の来所、防災訓練の地域住民の協力など「地域とともに歩む」という理念が実現されていた。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者主体・人権尊重・自立支援を柱にして、地域とともに歩み、やすらぎを感じることの出来る場作りを謳った事業所独自の理念を作り上げ、事業所入り口に掲げてあった。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時やミーティングの際に唱和し、内容や意義についても説明し、理念を自らのものとし、介護の現場に反映するよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会に加入し、近隣への散歩時の挨拶や野菜果物等のおすそ分けも頂いている。玄関横に設置した椅子に近所の方が夕涼みに来るなど気軽な近所つきあいが出来ている。保育園児、小・中学生との交流、地区周辺のボランティアや多くの学校の実習生の受入れ、地元の春祭りの獅子舞の来所、防災訓練の地域住民の参加など「地域とともに歩む」という理念が実践されていた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価については、全職員にその意義を説明し、自己評価は全員で取り組み、主任介護士が取りまとめた。評価により気付かされたことについては具体的改善に向けて話し合い、サービスの質を向上させることの意義について職員の意識を高めた。		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は年4回開催し、委員に有識者を加えるなど充実した会議になっている。事業所の現状が報告され、有識者の的確な議事運営により意見質疑が活発である。食中毒や感染症の現状、地域との交流の提案など積極的に事業運営に関わろうとする姿勢が伺えた。</p>		<p>運営推進会議の今後のさらなる活用として、地域住民に浸透していない認知症理解の場作りへの協力依頼や事業所運営(事業所内の飾り付け・職員の言動・清掃など)について一般の方から見た時の思いや感想を聴く機会などを設けることを期待します。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市にとってもグループホームを含む総合福祉施設須坂やすらぎの園は大きな存在であり、包括支援センターを通じて連携協力関係は密である。地域の高齢者が安心して生活できる場作りのため、事業所だけで課題解決に取り組むことなく、市との協働を常に念頭に置くことが望ましい。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や毎月の利用料の請求時に健康状態や近況、金銭出納について報告している。必要に応じて随時の手紙による報告相談もある。行事の様子やお知らせを掲載しているやすらぎ通信は20年度は1回の発行であったが、今後は3か月に1度は発行し、ご家族の安心や絆を深めるよう取り組む計画である。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族会は年3回行い、ご家族の思いや意見を聴くようにし、意見ポストや第三者委員を設けるなど意見を言える体制も出来ている。意見等は本来言いにくいものであるため、家族会でご家族同士の話し合いの場を作ったり、テーマ(清掃・職員の言動など)を決めてご家族の思いや感想を聴く機会を設け、徐々に気軽に意見等を言える雰囲気を作ることも一考かと思われる。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>20年度は職員の異動等も多かったと同時に利用者の入退居も多く、事業所全体として落ち着かない環境であった。離職等を抑えるためには産休や育休などの利用の説明、メンタルヘルスの必要性など一歩進んだ労働環境の充実が大切であることを20年度の実践から気付いた。働きやすい職場作りに向けてさらなる努力をすることを望みます。</p>		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修会や講習会に積極的に参加できるよう支援したり、資格取得への支援や特典があるなど、事業所の職員の質の確保や向上心の育成への積極的な取り組みが伺えた。人事考課での職能評価との相乗効果により自発的研修等への参加も多く、職員の学ぶことへの前向きな姿勢が感じられた。研修後はミーティングでの報告や報告書の閲覧が行われていた。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣のグループホームとの情報交換を積極的に行い、研修会や勉強会のお誘いも受け、事業所内のケアに留まることなく、他の事業所の工夫を学び、日々の介護サービスや職員育成に役立つ実践的な情報交換を図っている。良いところ、工夫しているところを発見するような事業所間の交流などを企画することを望みます。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>日帰りのお試しや仮入居期間を設けるなど利用者や職員、事業所の雰囲気に馴染みながら入居できるよう支援している。時にはご家族の付き添い、泊り、面会の回数を増やすなど利用者が徐々に事業所に馴染み、安心感を持てるよう工夫している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であるという基本姿勢を持って、これまでの生活歴の中から得意なことなどを探して、それらを発揮していただきながら、支えたり、支えられたりする、共に暮らす仲間としての関係性を築いている。料理、漬物、洗濯の工夫など利用者の知恵に助けられる場面が多いことを伺った。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の関わりの中や毎日の状況を記録して、ミーティングで情報を共有化しながら利用者の思いや意向を把握するよう努めている。引込み思案であった利用者に得意分野を發揮してもらったことにより生活が前向きになったことを伺い、職員が利用者の暮らしの意向を上手に引き出すという個別対応の実践が出来ていることが感じられた。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>課題分析はセンター方式により、利用者やご家族の思いや要望を聴いて、利用者の担当職員が原案を作成し、ケアマネージャーのもと、全職員で意見交換やカンファレンスを行い、介護計画は作成されている。ご家族へは面会時に説明し、了解を取っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的には3か月に1度、介護計画の評価見直しを行い、心身の状況の変化の際は臨機応変に検討見直しをして、現状に即した新たな計画を作成している。毎日、朝礼の時に利用者の状況について話し合い、介護計画の確認、見直し検討を話題としている。見直された介護計画は面会時にご家族に説明し、了解を取っている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>看護師を職員として配置した医療連携体制があり、入院の際は医療機関と連携を図り情報交換を行って早期退院に向けて努力している。重度化に向けては併設施設の特浴を借りる体制があるなど事業所の多機能性を活かした支援が出来ている。空きベッド利用のショートを検討中である。</p>		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者やご家族の希望するかかりつけ医となり、利用者それぞれ違っているが、適切な医療が受けられるよう情報提供を密にして、往診に来てもらったりと医療面での安心が得られるよう支援している。受診は原則、ご家族が付き添い、了解も得ているが、ご家族の状況によっては、職員が代行するなどの柔軟な支援体制を検討することを求めます。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期のあり方については、契約時に事業所の対応指針を十分に説明し、ご家族の理解と納得を得ている。了解事項の思い違いや状況変化に応じての心のゆれに対応するため、都度話し合うことを大切に、利用者やご家族の今の気持ちに副っていけるよう支援している。</p>		
、その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の尊厳を守ることは理念にも謳われ、言葉掛けはミーティングで気を付けるよう話し合い、さらに職員同士で注意し合うよう努めている。個人記録は保管庫に収納すると共に個人情報の取り扱いには最大限の注意を払うよう徹底している。利用者の呼び方については、利用者やご家族の了解を得て対応しているが、開かれた事業所であることを考慮すると姓で呼ぶことが妥当と思われるので十分に検討することを望みます。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者が今日どう過ごしたいか、一人ひとりのその日の状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。利用者には一日をゆっくり、その人らしく、「ほっと」してもらいたいという職員の願いがあり、それらの実現のための支援が行われている。</p>		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼、夕食は現在、併設施設からの配食となっているが盛り付け・配膳・下膳・洗い物・食器の収納は利用者の出来る範囲で職員と一緒にやっている。朝食は事業所で利用者と職員が調理し、食材の買い出しに出掛けたり、畑で取れた物やおすそ分けの野菜等を利用している。希望を聞いて店屋物を取ったり、外食が話題となり出掛けたこともある。食事が一日の大切な活動となるよう支援している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、何時でも希望により出来ることにしているが、利用者の希望の集約結果として、概ね午後3時～6時くらいの時間帯の利用になっている。風呂嫌いの方には皆で入ろうなどと誘いかけて入浴できるように工夫している。苜蒲湯・ゆず湯・りんご湯など季節感を取り入れて入浴を楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・編み物・貼り絵・食事作りなど利用者の得意なことを発揮してもらい、役割や楽しみごとを多く持てるよう支援している。農家出身の方が多く、梅干・干し柿・漬物など昔取った杵柄があり主役となって活躍できる場面作りをして、家での楽しみごとが事業所でも継続できるよう取り組んでいる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に応じて事業所周辺の日常的な散歩を行っている。散歩途中での地域住民との挨拶、玄関横の椅子での休憩、中庭での焼き芋大会、果樹園の花や果実を眺めたりと外に出ることを楽しんでいる。ドライブを兼ねた花見、さくらんぼ狩り、ぶどう狩りもあり、積極的に戸外に出ることを支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	併設施設の玄関を通過して事業所に入る形となっていて、この出入り口は日中鍵は掛けてなく、グループホーム独自の玄関は鍵を掛けてあるが、職員に言えばいつでも外に出ることが出来るようになっていく。行動観察と所在確認を充分に行い、安全面への配慮をしている。中庭に通ずる掃きだし窓からは庭の草むしりなどのため自由に出入りしている。		

高齢者総合福祉施設須坂やすらぎの園

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害対策マニュアル・避難経路図・スプリンクラーを始めとする消防設備・年1回の総合防災訓練(地域住民・消防署・消防団の協力)・月1回の防災訓練(避難、消火等)・毎日の災害時・緊急時対応の確認など磐石な体制を整えている。併設施設等の協力を得られるので夜間一人勤務となっても安心であり、業務に専念出来る環境となっている。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事はチェック表、水分量は日常生活活動のチェックにより把握して必要量を確保できるよう支援している。献立は併設施設の栄養士により作成され、栄養バランスやカロリーは保たれている。利用者の嗜好等を把握しているので状況により代替を準備するなど、個別の食への支援も出来ている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居間・食堂・台所が一体となっており、調理の匂いや音を感じられ、天窗や掃き出し窓からの採光も良く、ソファなどの位置への配慮もあり、周辺の壁には季節を感じさせる貼り絵があり、落ち着いて過ごせるよう工夫されていた。菖蒲湯・鍋料理・流しソーメンなど五感の刺激や季節感が意識的に取り入れられていた。窓からは中庭・その向こうに家並や果樹園が眺められ、利用者にとっては、これまでの暮らしの風景が継続しているように感じられていると思われた。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には事業所所有の物はなく、全て利用者がこれまで馴染んできた家具等(ベッド・寝具・タンス・テレビ・写真等)で満たされていた。床暖房であり、居室の利用方法は和風・洋風と利用者の自由となっていた。窓からは果樹園等が眺められ、馴染んだ風景の中で安心して過ごせるよう配慮されていた。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。